



蔵王権現に桜の開花を報告する花供懺法会は、吉野山の年中行事のなかでも、最も荘厳にして、華麗。4月11日、12日に行われる「10万石の格式」といわれる大名行列は、上千本の竹林院から蔵王蔵までの約1kmを練り歩く。

吉野山の花供懺法会

はななくせんぼうえ

奈良のむかしばなし

文・山崎しげ子

第三十話

春四月、日本一の桜の名所、吉野山は、満山、薄紅色の桜で包まれる。花の盛りの四月十一日、十二日に行われる、荘厳にして華麗な法会が「花供懺法会」。

吉野山のご神木として崇められてきた山桜を、金峯山寺の本堂（蔵王堂）の本尊、蔵王権現に献じ、今年の花の開花を報告する。今回は、その儀式の始まりについてのお話。

昔、桓武天皇が長岡の宮で病氣になられ、吉野山の高僧、高算上人をお召しになった。

上人は急いで都に上り、病氣平癒のご祈禱をした。ご病氣はたちまちに平癒され、喜んだ天皇は、上人に、「望むことがあれば、何なりと申せ」



「千本づき」でついた餅を撒く「御供撒き」のようす

と仰せられた。

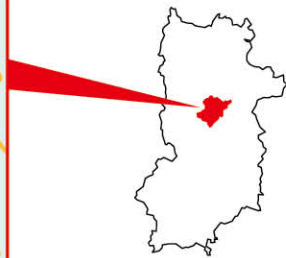
上人は感涙にむせびつつ、「衣をまとう僧の身、何の望みもございませぬ。ただ、歴代天皇のご祈禱の寺で、毎年、花の神様を供養するお金がございませぬ。お米の喜捨をお許し願いとございます」と言った。

早速、金峯山寺では全国の末寺に命令を下した。

その勧進の方法は独特で、民家の門々に立つて、「吉野山花供懺法」と声高に呼ぶだけ。皆喜んで米を喜捨してくれたそうだ。

寺では、集められたお米で餅を搗いた。これがたくさんの杵で餅を搗く「千本づき」。今も、四月十日に行われ、餅は丸めずに、ちぎったままで

物語の場所を訪れよう



「金峯山寺」(吉野町吉野山2500)へは…
近鉄吉野駅下車、ロープウェイ吉野山駅下車、南東へ約1.2km。
☎0746-32-8371



ご本尊に供えられる。桜花の代わりであらうか。

十一日・十二日には、呼び物の大名行列。法螺貝の音を合図に、毛槍、挟箱を持った奴、僧侶、稚児、鬼、山伏、信徒ら、総勢三百人が、竹林院から蔵王堂まで、桜の花の下を練り歩く。法要、探灯大護摩供(検索してね)のあと、最後に檜の上から「千本づき」の餅が撒かれる。

大ぜいの参詣人が歓声とともにどとと檜の下に集まり、五穀豊穡の象徴である餅を競って受け、一年の無病息災を祈願する。この餅が、撒かれるさまは、まさに桜吹雪のよう。吉野山のご神木である満開の桜は、まためでたい春の蘇りの喜びでもあるらしい。